

BULLER 氏ハ曾テ英國キユー植物園ニ在リテ研究セル際、(氏ハ加奈太カラ屢々英國倫敦郊外キユー植物園ニ來リ研究シテキルノデ私ガ大正十二年夏キユーニ居タ時モ氏ノ指導ヲ仰ギ CORON 氏ト共ニ園内ニアル大キナニレ樹ノ洞穴中ニ生セル *Fomes* ノ胞子ノ散布狀態ヲ日光ヲ巧ニ利用シテ觀察シタコトガアル、氏ガ偶々人ヨリ貰ッタ *S. crispata* ノ結實體ノ徑十吋モアル新シキ標本ヲ用キテ之ヲ顯微鏡ノ覆ニ使用シテキタ硝子箱ヲ利用シテ其中ニ菌ヲ逆ニツルシ二日ノ後觀タ處、常ニハ上向デ *Hymenium* ノ無イ *lamina* ノ上面ガ、逆ニ垂ルサレテ下ニ面シテ居タ爲メ *Hymenium* ガ出來テ居ルノヲ實驗シタノデアアル

コレハ直立セル樹幹ニ水平ノ位置ニ生エテ居ル *Fomes pinicola* 等ガ、寄着セル樹ガ地上ニ倒フレタ結果垂直ノ位置トナツタ後ニハ菌體上ニ新ニ夫レト直角ニ水平ノ方向ニ結實體ガ發達スルノト同ジ理由ニ依ルモノデアアル、終リニはなびらたけハ一種ノ香氣ガアリ味ハ非常ニ美味デアルトノコトデアアルガ澤山ニ探レナクテ容易ニ賞味スルコトガ出來ナイノガ遺憾デアアル

## ○人 蔘

藥學博士 刈 米 達 夫

昔ハ一本ノ價ガ娘一人ニ匹敵シタ人蔘モ今ハ大量生産ガ行ハレ日本ノ内地ダケデ年産十五萬斤、朝鮮モ略同

| 本邦内地産額 |        | 朝鮮産額   |        | 輸出額   |       |
|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 數量(斤)  | 價格(圓)  | 數量(斤)  | 價格(圓)  | 數量(斤) | 價格(圓) |
| 一七六三三〇 | 五七七一五八 | 一一一〇〇五 | 一八七六八〇 | 七七〇〇〇 | 四一〇〇三 |
| 一二二六二一 | 六五八三九五 | 五四二〇〇  | 一一九八〇〇 | 七〇〇〇〇 | 二九七〇三 |
| 一六二五二三 | 八四九六四一 | 九七三〇〇  | 一六四八〇一 | 三〇〇〇〇 | 二五二九七 |
| 同昭和元年  |        |        |        | 二五二九七 | 一五八四  |
| 同三二年   |        |        |        | 一五八四  |       |
| 同元年    |        |        |        |       |       |

人 蔘

額、遠クハアメリカカラモ支那ニ輸出サレル、内地デ人蔘栽培ノ盛ンナノハ福島縣ヲ最ト



第一圖 おたれにんじん(人參) (Panax Ginseng C. A. MEY.)

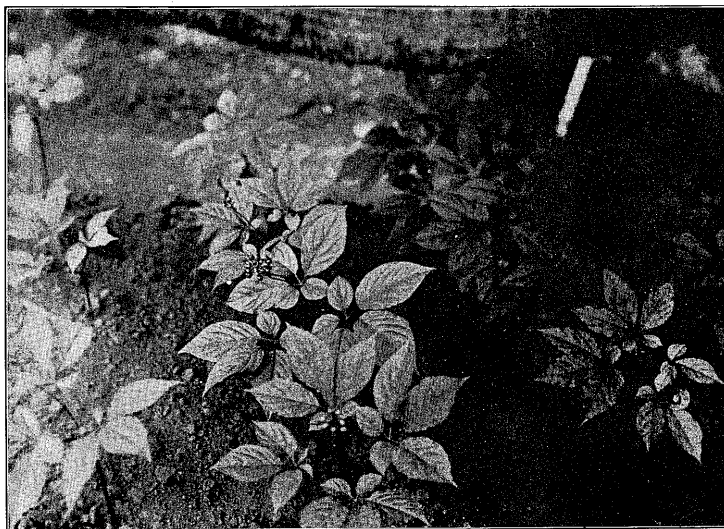
シ長野、島根ノ二縣之ニ亞ギ、ソレゾレ會津人參、信州人參、雲州人參ノ名ヲ以テ知ラレテ居ル、最近三年間ノ產額及ビ輸出額ハ前掲ノ表ノ通デアル

本邦ニ創メテ人參ヲ植エタノハ徳川三代將軍家光ノ時、朝鮮カラ種子ヲ得テ野州日光ニ植エタルニ始マリ〔牧野白井博士ノ著植物渡來考ニハ「本草綱目纂疏に享保四年對州侯朝鮮人參苗六株を幕府に獻ず將軍吉宗之を下野日光に植ゑしむ云」タルアル〕後、種子ヲ會津藩ニ下附シテ栽培セシメタ、之ヲ御種人參ト稱シ藩ノ專賣事業トシテ莫大ナ利益ヲ占メルニ至ッタ、今日デモ會津地方ハ本邦内地ニ於ケル最大ノ產額ヲ占テ居リ若松ニ近イ有名ナ東山溫泉ニ遊ブ人ハ沿道到ル處ニ人參畑ノ散在スルノヲ見ルデアラウ

出雲地方ニ人參ガ傳ハッタノハ享保二年時ノ藩主松平侯ガ非常ニ產業ニ熱心デアツテ藩士小村茂重ヲ日光ニ派シ小村氏ハ農夫ニ化ケテヒソカニ栽培、調製ノ法ヲ習得シ且ツ種子ヲ盜ンデ枝ノ中ニカクシテ歸藩シタ、最初ニ八束郡古志原村ニ試作シ好結果ヲ得タノデ藩ノ事業トシテ領内二十八個所ニ適地ヲ選ビ栽培シタ、爾



第二圖 島根縣八束郡乃木村ニ於ケル人蔘小屋



第三圖 人蔘小屋ノ内部

來年々事  
 業ヲ擴張  
 シ農民ニ  
 モ栽培ヲ  
 許シタ、  
 斯シテ藩  
 直轄ノ人  
 蔘畑ハ御  
 手畑農民  
 ノ栽培ス  
 ルモノヲ  
 百姓畑ト  
 稱シ懸賞  
 ノ法ヲ設  
 ケ又濫ニ  
 畑數ヲ増  
 減スルヲ  
 禁ジテ粗  
 製濫造ヲ



第四圖 長野縣南佐久郡岸野村ニ於ケル人蔘畑

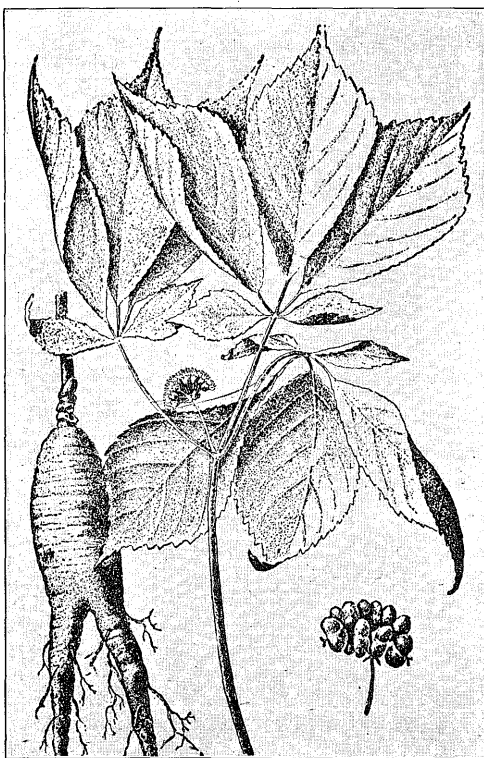
防ギ人蔘奉行及ビ人蔘役所ヲ設ケテ生産、販賣、獎勵等ノ事務ヲ統轄シ頗ル合理的ノ獎勵方法ヲ講ジタ、此ノ人蔘役所ノアツタ場所ハ今デモ松江市ニ人蔘方トイフ町名トシテ殘ツテ居ル、斯シテ雲州人蔘ノ名聲ハ遠ク支那ニ及ビ支那商人ハ爭フテ之ヲ仕入レルニ至リ天保年間ニハ年産額三萬五千斤、價格數萬兩ニ達スルニ至ッタ

信州地方ノ栽培ハイツノ頃ヨリ初マツタカ明カデ無イガ種子ハ矢張會津カラ傳ハッタモノデアル、現今長野縣下ニ於ケル栽培ハ南佐久郡ヲ中心トシ、殊ニ同郡岸野村ハ最モ畑數ガ多イ、此地方ノ生産品ノ大部分ハ同郡中込町ナル信濃蔘盛株式會社ニ集マリ此處デ調製仕分サレ支那ニ輸出サレル

朝鮮ニ於ケル人蔘ノ栽培ハ京畿道開城郡ヲ中心トシ、京畿・黃海・平安南道ノ一部ヲ特別耕作區域トシテ專賣制ヲ布カレテアル、紅蔘ノ製造ハ總督府ノ專賣事業ニ屬スル

北米合衆國ニ栽培スルモノハ本邦ト種ヲ異ニシあめりかにんじん *Panax quinquefolium* L. デアル、主トシテ西部地方ニ産シ支那ニ輸出スル、本邦種即チ *Panax Ginseng* C. A. Mer. ニ比シ花梗短カク從テ果實熟スレバ球狀ニ團塊シ且繖形花序モ本邦種ノ如ク葉ノ上ニ高く超出セズ、又コレハ嘗テ故陸軍

デアツテ此ノ葦屋根ハ播種カラ收穫マデ撤去シナイ、一生涯陽光ニ觸レズ深窓ニ育ツ植物デアアル、收穫ハ通常播種カラ四年目ニ行フ、五年又ハ六年目マデ畑ニ置ケバ根ハ頗ル肥大トナリ高價ニ賣レルガ四年以後ハ病害ニカカリ易イノデ場合ニヨツテハ全滅スルコトガアル、即チ四年以上ノ根ヲ育テルコトハ非常ニ儲カルカ或ハ丸損ニナルカノ投機事業デアアル、人蔘ハ概シテ病害ニカカリ易イモノデ連作ヲ絶對ニ忌ムノモ其爲デアアル、一回之ヲ栽培シタ場所ハ少ナクモ三十年間ハ人蔘ヲ植エラレヌモノト傳ヘラレテ居ル、地方ニヨツテハ一代一作ト稱スル、近年長野縣農事試驗場ノ研究デハ土壤ヲ充分ニ消毒セバ連作シテモ差支無イトノコトデアアル



第五圖

あめりかにんじん (*Panax quinquefolium* L.)

藥劑監羽田益吉氏ガ觀察サレタトイフノヲ岸田松若氏カラ傳ヘ聞イタコトデアアルガ、あめりかにんじんハ初生葉ノ時代カラ五小葉ヲ持ツテ居ルサウデアアル、本邦種ノ初生葉ハ三小葉カラ成ツテ居ル

人蔘ノ栽培ハ北面ノ排水好キ傾斜地ヲ良シトシ、通常長サ二十八尺、幅二尺五寸、必ズシモ然ルニアラズ、之ヲ標準トス)ノ床ヲ設ケ、北面ヲ殘シ東・西・南・上ノ四方ハ葦ニテ日除ケヲ作り雨露及ビ陽光ヲ防グ(第四圖參照)、蓋シ

人蔘ハ乾燥・濕潤何レニ過グルモ禁物

收穫後ノ調製法ニハ大體ニ於テ白蔘・紅蔘・雲州製ノ三法ガアル、根ヲ洗ヒ其ママ陽乾シタモノヲ白蔘トイヒ、蒸籠ニ入レテ數十分間蒸シテ後乾燥シタモノヲ紅蔘トイフ、是ハ最モ支那人ノ好ム製法デアアル、此場合ニハ澱粉ハ糊化シテ堅硬トナリ貯藏中蟲害ノ患ナク黃紅色半透明トナリ外觀モ非常ニ美シイ、シカシ其内ノ成分ハ白蔘ニ比シ幾分カ失ハレテ居ル譯デ現ニ蒸熱ノ際、シタダリ落テル水分ヲ煮詰ムレバ多量ノ「エキス」分ヲ得、之ヲ蔘精ト稱シ副産物トシテ此レモ高價ニ賣レル、雲州製トイフノハ水蒸氣デ蒸ス代リニ極メテ短時間、熱湯ニ浸シ後乾燥スルモノデアッテ大體紅蔘ト白蔘トノ中間ノ性質ヲモツテ居ル

斯シテ製造サレタル品ハ形狀整ヒ且ツ大形ノモノヲ上品トシ二十五種ノ等級ニ分ツ、一斤(百六十匁)ノ本數二十五根ヲ最上トシ之ヲ旭記トイヒ、以下、宇宙天鳳仁義禮智信順花春夏・中夏・月秋雪冬玉功・次功・商・虎・次虎等ノ記號ヲ附スル、此ノ記號ハ内地ノ各地方デハ共通ノ様デアアル(朝鮮ハ知ラズ)

人蔘ハ昔カラ傳ヘラルル如キ萬能的ノ藥效ハ無イコト無論デアアルガ興奮又ハ強壯藥トシテ相當ノ價値アルコトハ事實デアアル、其ノ藥學又ハ醫學上ノ研究ハ既ニ可ナリ行ハレテ居ルガ此處ニ省略スル、人蔘ノ屬名 *Panax* ハギリシア語ノ *pan* (汎)、*acos* (醫藥) ヨリ成ル、即チ謂ユル萬病ノ藥ノ意デアアル、コレハリシネガ主トシテ前ニ記シタあめりかにんじん (*Panax quinquefolium* L.) ト之レニ伴フテ今一種北米產ノ *P. trifolium* L. トノ二種ニ對シテ下シタ屬名デアアルガ其際ニ亞細亞產ノおたねにんじん(人蔘)ガ其實物ハ當時尙不明ダッタガ其にんじんノ名ハ彷彿ト分ツテ居テ其レヲあめりかにんじんと同ジモノト考ヘタデハナイカトノ様ニ感ゼラル、

## ○もちのきノ雄花ト雌花

藥學士 木村康一

東京本郷ノ帝大構内弓道々場ノ入口ノ處ニ雌木ト雄木トノもちのきガ仲好ク並ビ生エテ居テ年々能ク花ヲ着